

天天中文シリーズ講座：中国語でキャリアアップ！

「中国語でキャリアアップ！」は中国でキャリアを発展させる各界の方々に、仕事の現場や中国語学習法についてお話を伺う「天天中文」のシリーズ講座。中国の各界で活躍する皆さんに、仕事や生活のリアル体験をお伺いします！

第11回（2022年7月29日）ゲスト：

劉昕明先生・・・1997年山東省淄博市生まれ。大連外外国語大学大学院生。青島科技大学卒業後、高校の日本語教師を経て、大学院入学、日本語の言語学を専攻。趣味は音楽と漫画、一番好きなミュージシャンはジェイ・チョウ（周傑倫）。

白侯辰先生・・・2001年北京生まれ。北京第2外国語大学3年。将来は通訳ガイドを目指し、日本語を専攻。今秋、日本へ留学予定。趣味は音楽とゲーム。

天天中文：先生方、今日はよろしくお願いします。まずアニメファンのお二人にお伺いしたいのですが、小さいころ、どんなふうにアニメを見るようになったのでしょうか？

劉：小さい頃は「一休さん」などをテレビでよく見ていました。今はネットでみられるのでとても便利ですね。

白：小さいころは、私の母が「ドラえもん」が大好きで、よく一緒に見ていました。自分にもし「ドラえもん」がいたら凄いだろうなあ、と思っていました。

天天中文：そうなのですね。中国は小さいころから受験勉強が大変だと聞いていますが、アニメを楽しむ時間もあってよかったですね。今日はお二人にいろいろと受験や大学のことをお伺いしたいのですが、まず、お二人は「高考」（大学の統一入学試験）での点数はいくつだったか、覚えていますか？

劉：542点でした（満点は4教科合計750点）高校では、朝6時に起きて夜11時就寝なのですが、毎日10時間以上は勉強していました。週末は日曜日だけ休みで土曜日は同じように勉強。高校は家から遠かったので寮で暮らし、勉強していました。

白：僕は、597点でした。僕は小さいころからあまり勉強は好きでなかったのですが、中学2年生の時、自分の担任の先生に成績について怒られ、家族からも大学に入れないといい仕事ができない、と言われ、その時から勉強するようになりました。高校では、授業以外に1日に2～3時間は勉強していました。

天天中文：中国の受験生は本当によく勉強しますよね。それでは、聞きたいのですが、もし、あまり勉強が好きでなく、成績の悪い生徒は進学についてはどうするのでしょうか？

劉：成績のよくない生徒は、「専科」と呼ばれる高等専門学校へ行きます。または「大専」と呼ばれる短大に行く人もいます。そこから「本科」と呼ばれる大学の本科へ編入する試験を受けることもできます。でも、そうすると、普通に進学した人より1年余計に勉強することになります。

天天中文：お二人はそんな厳しい受験勉強を経て、第一志望校に合格したのですよね？
二人とも凄いですね！劉さんは、その第一希望の大学を出て一度就職、それからまた大学院に戻ったのですよね。就職は大変でしたか？

劉：私は就職についてはそれほど大変ではなかったと思います。例えば多くの人が希望する公務員だと、選抜試験が大変ですが、私は公務員志望ではないので、そんなに大変ではなかったです。最初の就職は高校の先生だったのですが、それは正式の教職ではなく、待遇も低いものだったので、正式の教職をめざし、大学院に進学しました。来年6月に大学院卒業で、その後は教職試験にチャレンジします。まずは民間の会社員に応募して仕事のオファーを得て万が一の場合に備えてから、試験の準備もしようと思っています。

天天中文：いま中国では就職などに関して「内巻」という言葉が流行っていますよね。これはどんな意味なのでしょう？

劉：内向きの競争が激しくて、みんなが強いプレッシャーを受けている状態を指します。いまの中国ではこのような状態が深刻です。

天天中文：白先生は、3年生になる今年の秋、日本の愛知県に留学するのですよね？

白：はい、半年留学するのですが、その半年は北京第2外国語大学で半年勉強した期間とカウントされる制度なので、帰国後はそのまま4年生として卒業できます。日本の大学院に進学したいと思ってもいますが、まだ詳細は決めていません。

会員：「高考」についてお伺いしたいです。少し前に「高考」が試験だけではなく、高校の内申書が重視されるようになっている、と聞いたことがあるのですが、実際はどのようなのでしょうか？それは受験にどんな影響がありますか？むしろ入試が難しくなったりしていますか？

白：いまの状況だと、全員が内申書を出すわけではなく、ものすごく優れた能力を持つ人だけが内申書だけで進学することもあります。私の高校は1学年 2000 人ほどいるのですが、なかに 2 人、数学オリン

ピックで金メダルを獲った生徒がいて、彼ら二人は「高考」を受験せず清華大学に進学できました。

天天中文：白先生は、高校では何番くらいだったのですか？

白：私の高校は、1 学年 2000 人のうち、72 名が文科系で、残りはみな理科系です。私は文科系 72 名のうち、およそ上位 20 名内にいました。

天天中文：凄いですね！それにしても理系の生徒が多いのですね！劉先生の学校にも受験しないで進学できる制度はありましたか？

劉：はい、ありましたが、当時の私の学校では受験しないで進学した人はいませんでした。

会員：白先生に質問です。その 2000 人の同級生のうち、その年の「高考」の最高数は何点だったのでしょうか？

白：具体的には細かく覚えていないですが、710 点くらいの方がいました。私の受験した 2019 年は同級生のうち、28 人が北京大学、23 名が清華大学に進学しています。同級生は 100% 大学（本科）進学です。

会員：日本では大学ごとに問題を作りますが、中国だと統一の問題に対してものすごい人数が受験するので差をつけるのが難しいのではないかと思います、どうなのでしょう？

白：統一試験の問題はたしかに同じなのですが、その問題のなかに基本的な問題と、創造性がないと解けないようなレベルの高い問題が混じっています。難関校に入るには、難しい問題を解いて高い点数をとる必要があるので、そこで差がつくようになっています。

会員：中国では「浪人」する人はいるのでしょうか？

劉：1 年準備して、再度、受験する人はいます。

会員：志望校はどのように選ぶのですか？

白：中国では 2 回、模擬試験があります。1 回目は難度の高い問題が多い模擬試験、2 回目は比較的やさしい問題の模擬試験です。その 2 回の模擬試験の平均の点数が自分の点数の目安、ということになります。そのあと高校では、それぞれの大学の過去の合格ライン点数を記した資料を配り、それを見て自分の志望校を決めます。そして実際の「高考」のあとは自分のとった点数が通知されるので、その

点数をみて大学側にエントリーします。僕の場合は試験の点数は597点、その時第一志望だった北京第2外国語大学の合格ライン点数は594点と発表されていたので、第一希望校にエントリーし、入学を許可されました。

劉:私の場合は、点数は542点でしたが、第一希望の大学の合格ライン点数は510点でした。エントリーするときは同じ大学のなかで複数の専攻学科にエントリーすることができます。第一志望は日本語、次がロシア語、英語・・・というように。その後、大学側がどの生徒をどの学科に採るかを決めていきます。私の場合は30点以上合格ライン点数を上回っていたので、第一志望の学科に進むことができました。時には自分の希望ではない専攻に決まってしまう場合もあるのですが、大学二年生の時に専攻を変えるための試験があり、そこで専攻を変えることもできます。

会員:そのように専攻を変えた方は、劉先生のまわりにいましたか？

劉:そんなに多くないです。一人とか、二人くらいでしょうか。

会員:大学受験の時に、大学のある場所というのは重視するのでしょうか？例えば私の友達に北海道にいきたいから北海道の大学を選んだ人がいましたが、中国でもそういうことはあるのでしょうか？

劉:はい、私は海が好きなので、海のある青島の大学を選びました。私の出身地、山東省の淄博は内陸で海がないんです。

白:私は北京っ子ですから、家から近い地元がよかったので、北京にしました。

会員:私の友達でも、海のない街に生まれ、海に憧れて海の近くの大学にいき、その後、仕事で船乗りになった人がいます。

会員:中国の大学生は恋愛禁止なのでしょうか？

劉:大学生は禁止ではないです。卒業後すぐ結婚する人もいます。卒業後すぐ別れる人もいますが。

天天中文:白先生はこれから日本に行かれるので、日本人のガールフレンドができるといいですね！やさしい白先生ならモテそうです。

* * *

この後、中国の大学生活や就職について会話が続きました。

